血液培養から *Vibrio cholerae* non-O1, non-O139 が検出された症例

◎阿部 結穂[1)]、田村 美歩[1)]、生田 真理子[1)]、中島 正之[1)]
公立八鹿病院 医療技術部 検査科[1)]

【はじめに】*Vibrio cholerae*（以下 *V.cholerae*）は菌体表面の O 抗原が 200 種類以上あることが知られている。このうち、コレラ毒素を産生する O1 および O139 抗原をもつ *V.cholerae* による胃腸炎は感染症法で三類感染症に指定されており、迅速な同定が求められる。O1 と O139 以外の抗原をもつ *V.cholerae* は *V.cholerae* non-O1, non-O139（通称 NAG ビブリオ）と呼ばれ、食中毒の原因菌で稀に検出される事がある。今回我々は、血液培養から *V.cholerae* non-O1, non-O139（以下 NAG ビブリオ）を検出した症例を経験したので報告する。

【症例】53 歳男性。アルコール性肝硬変で入退院を繰り返されていた。7 月 13 日に 40.8℃の発熱と悪寒があり，救急外来を受診。菌血症が疑われたため血液培養 2 セット採取後、Meropenem と Vancomycin が投与開始となった。7 月 14 日に嘔気と下痢を 1 回認めた。7 月 15 日に血液培養の感受性結果より Minocycline へと変更された。その後、症状改善し 7 月 29 日に退院された。

【微生物学的検査】血液培養陽転時のグラム染色結果はコンマ状の湾曲したグラム陰性桿菌であった。Walkaway 40Plus にて同定感受性検査を実施。*V.cholerae* と同定された。血液寒天培地に暗緑色コロニーの発育を認め、オキシダーゼは陽性であった。TCBS 培地では黄色コロニーの発育を認めた。O1、O139 のスライド凝集反応は陰性であったため、NAG ビブリオが考えられた。さらに管轄の保健所に菌株解析を依頼した。結果は *V.cholerae* non-O1, non-O139、コレラ毒素遺伝子は陰性であった。また、抗菌薬開始 2 日目に便培養が提出され検査を実施したが、増菌培養でも *V.cholerae* は検出できなかった。

【考察】NAG ビブリオは生化学的性状が O1、O139 の抗原をもつ *V.cholerae* と同じであるため鑑別が重要となる。海外渡航歴がなくても魚介類の摂取などで NAG ビブリオ感染症は起こり得る。血液培養から *V.cholerae* が検出された場合は、患者背景や食事の内容、腹部症状も参考に同定検査を進めていくことが重要であると考える。

（連絡先： 079-662-5555 内線 1429）